

## 第4学年 音楽科学習指導案

日時 平成30年2月2日(金) 6校時  
学級 第4学年2組 25名  
指導者 金田 美奈子

### 1 題材名「音階で音楽をつくろう」

### 2 題材の目標

音やフレーズのつなげ方の特徴を感じ取り、音を音楽へと構成することを通して、まとまりのある音楽をつくる。

指導事項<新学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容より>

「A表現」(3) ア (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

〔共通事項〕 ア (ア)拍 音階 フレーズ (イ)反復 呼びかけとこたえ

### 3 児童の実態と題材設定の理由

第4学年の児童は、入学当初から担任と連携して、体を動かす活動を通じた〔共通事項〕の知覚・感受を基盤とした音楽学習を積み重ねてきている。第2学年から音楽専科が担当し、「拍の流れ」「リズム」「拍節的なリズムと拍節的ではないリズム」「旋律」「反復」等の中から精選した指導内容を設定し、繰り返し学習を積み重ねることで音楽表現の技能や鑑賞の能力の定着を図ってきた。

中学年では、低学年における学習を踏まえて、更に「旋律の動き」(音の長さ、高さ、リズム)「リズム・パターン」「フレーズ」「様々な楽器の音色」「発声等による歌声の違い」「旋律のかけ合いと重なり」「呼びかけとこたえ」「反復・変化」等、音楽を形づくっている要素同士の関わり合いによる曲想の変化を感じ取り、表現や鑑賞の活動を通して自分の考えを再構成することができるような題材を設定している。

今回の題材では、〔共通事項〕として「拍」「音階」「フレーズ」「反復」「呼びかけとこたえ」を取り上げる。この中で、音やフレーズの特徴を生かして「いるか」を歌ったり、ドリア旋法の音階を用い「呼びかけとこたえ」を意識して間奏をつくる活動をしたりする。なお、その際、「呼びかけとこたえ」の学習として、ある呼びかけに対して模倣でこたえるものと、「続く感じ」の旋律と「終わる感じ」の旋律で構成するものを取り上げる。このような学習を通して音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くことができるようになると考え、本題材を設定した。

### 4 教材

「エーデルワイス」

(オスカー・ハマースタイン2世作詞 リチャード・ロジャース作曲 阪田寛夫訳詞)

ミュージカル「サウンドオブミュージック」の中で使われている楽曲で、3/4拍子の作品である。前半部分が「続く感じと終わる感じ」、後半は旋律の動きやリズムが変化し、最後に前半の旋律が反復されるため、フレーズのつなげ方の特徴と音楽の仕組みに気付くことができる教材である。

「いるか」(谷川俊太郎作詞 中地雅之作曲)

3/4拍子、DEFGAHC Dハ調ドリア旋法の作品である。間奏の部分には、音楽をつかって表現する活動が挿入される。谷川俊太郎の詩がもつ日本の「ことば」の自然なリズムや音楽性を「あそび」から「うた」アンサンブル、即興へと楽しみながら発展させていくために作曲された楽曲である。

5 題材の評価規準

	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能
題材の 評価規準	音やフレーズのつなげ方の特徴を生かして音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、まとまりのある音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 【関一① 音楽づくり】	音のつなげ方の特徴を感じ取っている。 【創一①音楽づくり】 フレーズのつなげ方の特徴を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の思いや意図をもっている。 【創一②音楽づくり】	フレーズのつなげ方の特徴を生かして、音を音楽に構成している。 【技一①音楽づくり】

6 題材の指導計画（全4時間）

時	○主な学習内容 ・主な学習活動	☆教師の支援 ◆評価【評価方法】
＜ねらい＞ ドリア旋法による音やフレーズのつなげ方の特徴を感じ取る。		
1	<p>○音階の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エーデルワイス」を歌う。</li> <li>・「エーデルワイス」をリコーダーで演奏する。</li> <li>・「いるか」の範唱を聴く。</li> <li>・ハ長調とドリア旋法の音階をリコーダーで演奏する。</li> <li>・長調とドリア旋法の曲想の違いについて感じ取ったことを交流する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「長調」 明るい、やさしい、やわらかい 「ドリア旋法」 暗い、あやしい、不思議、こわい、なぞな感じ</p> </div> <p>○音やフレーズのつなげ方の特徴の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いるか」前半部分の楽譜を見ながら教師の①を聴いて②を歌ったり、2つのグループに分かれて①と②を歌ったりする。</li> <li>・体を動かしながら歌い、歌詞と旋律の関わりや音やフレーズのつなげ方の特徴について確認する。</li> <li>・音やフレーズのつなげ方と曲想とのかかわりについて気付いたことを話し合う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「といとこたえ」でくり返されているから、追いかけてられているみたいな感じがする。</li> <li>・くり返しだから、見えないいるかを探しているような感じがする。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「レミファソラ」で即興的な音遊びをする。</li> </ul>	<p>☆3拍子を感じて演奏するよう指示をする。</p> <p>☆長調とドリア旋法の違いを感じ取ることができるように、演奏を聴く活動を設定する。</p> <p>☆長調とドリア旋法の比較を通して、曲想の違いに気付くことができるようにする。</p> <p>☆音を確実に取ることができるようにするために、デジタル教科書の音源を活用する。</p> <p>☆フレーズを感じ取って歌うことができるように、ボールを使った体を動かす活動を設定する。</p> <p>☆短い旋律が反復することによって生み出される曲想について交流できるようにする。</p> <p>◆音やフレーズのつなげ方の特徴を生かして音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、まとまりのある音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 【関一① 行動・発言・学習カード】</p> <p>☆旋律の動き方や旋律のリズムを工夫するよ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったモチーフを発表する。</li> <li>・教科書にあるオスティナートを木琴や鉄琴で演奏する。</li> <li>・歌①②、オスティナート、フレーズに合う動きをする担当に分かれて、「いるか」前半部分を歌う。 1 列目→歌① 2 列目→歌② 3 列目→木琴のオスティナート 4・5 列目→動き ○振り返り</li> </ul>	<p>う助言する。</p> <p>☆次時の音楽づくりにつながるよう、5つの音を自由に操作しながらまとまりのあるモチーフをつくっている児童やそれを反復させている児童の演奏を取り上げる。</p> <p>☆作品の全体像をつかみながら音楽づくりをすることができるように、毎時間全員で作品を表現する活動を設定する。</p>
<p>&lt;ねらい&gt;音のつなげ方を工夫しながら、即興的に音を音楽に構成する。</p>		
<p>2 本 時</p>	<p>○フレーズの知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌①②、オスティナート、フレーズに合う動きをする担当に分かれて、「いるか」前半部分を歌う。</li> </ul> <p>○音のつなげ方を工夫しながら、即興的に音を音楽に構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつなげ方を工夫して音を操作しながら、3拍子で4小節のドリア旋法の旋律をつくる。</li> </ul> <p>○つくった作品の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで、互いにつくった旋律を交流し、旋律の動きやリズムについて気付いたことを助言し合う。</li> <li>・一人の作品に合わせて、グループのメンバーがリコーダーで「レ」「ラ」のオスティナートを演奏する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの助言を生かして旋律を再構成する。</li> </ul> <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに再構成した旋律を記入する。</li> </ul>	<p>☆フレーズを感じて音楽づくりをすることができるように、列ごとに担当して、体を動かす活動をしながら歌って確認する場を設定する。</p> <p>☆児童が試行錯誤をしながら音を音楽へと構成することができるように、木琴や鉄琴での音楽づくりを設定する。</p> <p>☆モチーフの反復や呼びかけとこたえを意識してつくるよう助言する。</p> <p>☆3拍子にのってドリア旋法を使ってつくっているか、音のつなげ方に工夫があるかどうかを確認しながら活動するよう指示をする。</p> <p>☆ドリア旋法の曲想を感じることができるようにするために、友達の木琴の演奏を聴きながら「レラ」(完全5度)による付点二分音符のオスティナートをリコーダーで演奏する。</p> <p>◆音のつなげ方の特徴を感じ取っている。 【創-① 演奏・学習カード】</p> <p>☆音のつなげ方の特徴を確認することができるよう、学習カードに図形楽譜や階名で記入する活動を設定する。</p>

<ねらい>フレーズのつなげ方を工夫して、まとまりを意識した音楽をつくる。	
<p>3</p> <p>○フレーズのつなげ方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌①②、オスティナート、フレーズに合う動きをする担当に分かれて、「いるか」前半部分を歌う。</li> <li>・前時につくった作品を基にして、音を組み合わせつくった旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりして、8小節の旋律をつくる。</li> </ul> <p>○つくった作品の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とつくった作品を聴き合う。</li> <li>・友達の意見を取り入れて、フレーズのつなげ方を工夫する。</li> <li>・学習カードに再構成した旋律を記入する。</li> </ul> <p>○振り返り</p>	<p>☆「反復」を意識して音楽づくりをすることができるようにするために、全員で作品の前半部分を表現する活動を設定する。</p> <p>☆最初に、短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりして作品を構成することを確認する。</p> <p>☆旋律の反復や「続く感じ」「終わる感じ」などの呼びかけとこたえのような仕組みを生かしてつくっているかどうかを相互評価するよう指示する。</p> <p>☆友達からの助言を生かして、更に試行錯誤をしながら作品を仕上げるよう指示をする。</p> <p>◆フレーズのつなげ方の特徴を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法などについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: center;">【創一② 演奏・学習カード】</p>
<p>4</p> <p>○音やフレーズのつなげ方の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自がつくった旋律をもう一度聴き合う。</li> <li>・各自がつくった旋律をグループで繋げて「間奏」をつくる。</li> <li>・グループの「間奏」にする中で、音やフレーズのつなげ方の特徴に合うように、自分の旋律を修正する。</li> <li>・「間奏」に各グループの作品を入れて「いるか」を歌う。</li> <li>・友達のグループの「間奏」のよさや面白さについて交流する。</li> <li>・音やフレーズのつなげ方によって生み出される面白さや曲の構造のよさについてふれながら、「いるか」を学習して気付いたことや感じたことをまとめる。</li> </ul> <p>○振り返り</p>	<p>☆作品をつなげる順番や作品のつなげ方を工夫し、修正を加えながら間奏を仕上げるよう指示をする。</p> <p>◆フレーズのつなげ方の特徴を生かして、音を音楽に構成している。</p> <p style="text-align: center;">【技一① 演奏 学習カード】</p> <p>☆フレーズのつなげ方による面白さについて考えを交流する場を設定する。</p>

7 本時の学習(2 / 4時間)

(1)ねらい 音のつなげ方を工夫しながら、即興的に音を音楽に構成する。

(2)学習の展開

○学習内容	・学習活動	☆教師の支援	◆評価【評価方法】
<p>○フレーズの知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌①②、オスティナート、フレーズに合う動きをする担当に分かれて、「いるか」前半部分を歌う。</li> </ul> <p>○学習のめあての確認</p>			<p>☆フレーズを感じて音楽づくりをすることができるように、列ごとに担当して、体を動かす活動しながら歌って確認する場を毎時間設定する。</p>
<p>音のつなげ方をくふうして、ドリアせんぼうでそっきょう的に音楽づくりをしよう。</p>		<p>○音のつなげ方を工夫しながら、即興的に音を音楽に構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音のつなげ方を工夫して音进行操作しながら、3拍子で4小節のドリア旋法の旋律をつくる。</li> </ul> <p>○つくった作品の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで、互いにつくった旋律を交流し、旋律の動きやリズムについて気付いたことを助言し合う。</li> <li>・一人の作品に合わせて、グループのメンバーがリコーダーで「レ」「ラ」のオスティナートを演奏する。</li> </ul> <p>・友達からの助言を生かして旋律を再構成する。</p> <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに再構成した旋律を記入する。</li> </ul>	<p>☆児童が試行錯誤をしながら音を音楽へと構成することができるように、木琴や鉄琴での音楽づくりを設定する。</p> <p>☆モチーフの反復や呼びかけとこたえを意識してつくるよう助言する。</p> <p>☆3拍子にのってドリア旋法を使ってつくっているか、音のつなげ方に工夫があるかどうかを確認しながら活動するよう指示をする。</p> <p>☆ドリア旋法の曲想を感じることができるようにするために、友達の木琴の演奏を聴きながら「レラ」(完全5度)による付点二分音符のオスティナートをリコーダーで演奏する。</p> <p>◆音のつなげ方の特徴を感じ取っている。 【創-① 演奏・学習カード】</p> <p>☆音のつなげ方の特徴を確認することができるよう、学習カードに図形楽譜や階名で記入する活動を設定する。</p>